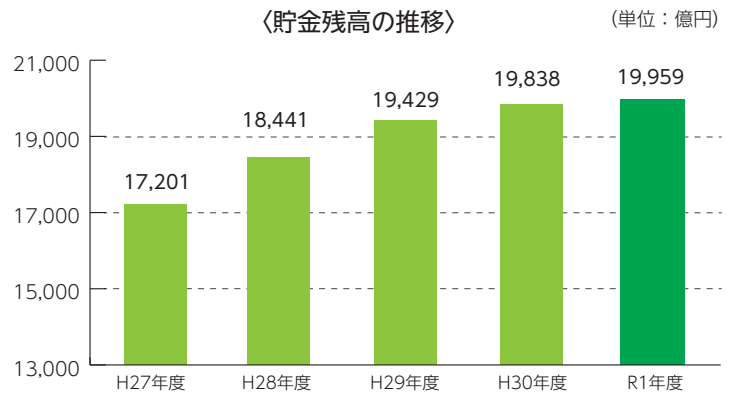


令和元年度業績の概要

日本銀行の金融緩和政策の継続により、金利が引き続き低水準で推移するなか、令和元年度の業績は、次のとおりとなりました。

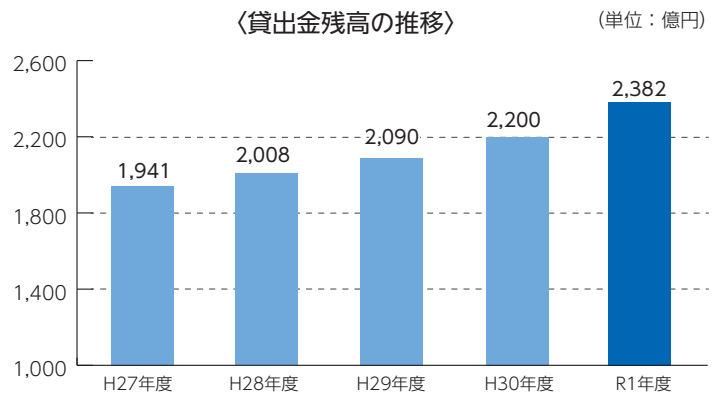
■ 貯金残高

会員JAからの預り金を中心に前期比120億円増加し、1兆9,959億円となりました。



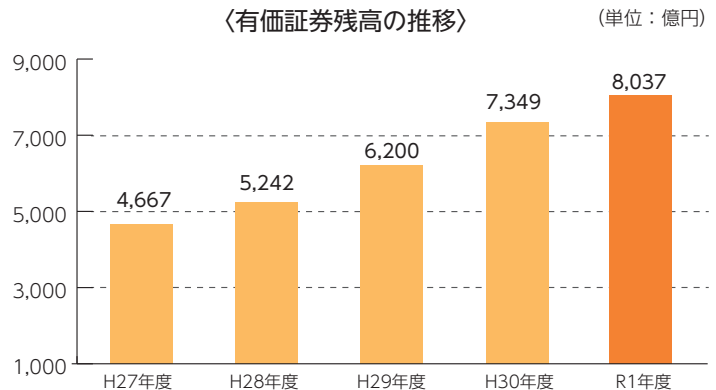
■ 貸出金残高

金融機関の貸出競争が熾烈化するなか、県内農業法人をはじめとする企業等への積極的な営業活動に取り組んだ結果、前期比181億円増加し、2,382億円となりました。



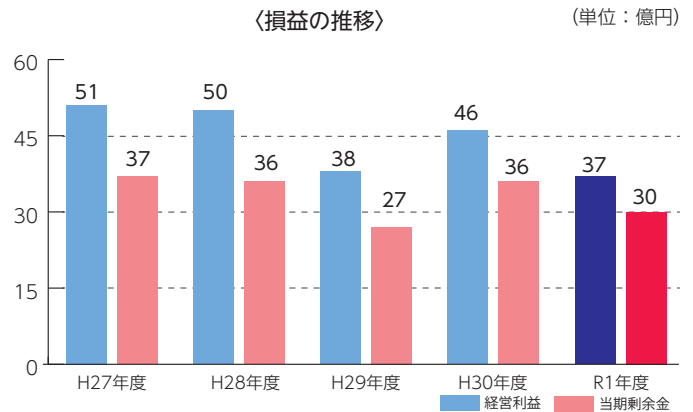
■ 有価証券残高

円貨建債券への投資のほか、株式、ETF、外貨建外債などへの分散投資により残高の積み増しに取り組んだ結果、前期比687億円増の8,037億円となりました。



■ 損益

貸出金および有価証券の残高増強を図ったものの、運用利回りが低下したことで、経常利益は前期比8億円減少し、37億円となりました。また、当期剰余金は前期比6億円減少し、30億円となりました。



■ 自己資本額・自己資本比率

自己資本額は、前期比17億円増加し、1,259億円となりましたが、運用資産残高増強にともない、リスク・アセット額が増加したことにより、自己資本比率は前期比0.80ポイント低下の13.14%となりました。

なお、同比率は、安全基準とされる国内基準の4%、国際基準の8%を上回っており、高い安全性・健全性を維持しています。

